

鍼灸マッサージ治療を健康保険で受診できるよう

# 医療を考える会

住所:渋谷区代々木 2-39-7メゾン代々木201

TEL:03-3375-6151 / FAX 03-3299-5275

メールアドレス :iryō-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp

発行元 : NPO 法人 医療を考える会

## 千駄ヶ谷社教館まつり報告

### ○ 千駄ヶ谷社教館まつりへ参加

山西俊夫

2月17日の社教館まつりに NPO『医療を考える会』が参加したのは今年で3回目です。

今年が目玉は、企画担当の瀬川先生の発案で、マッサージチェアを体験コーナーに活用したことです。昨年までは会場の椅子を利用して医療相談とマッサージを実施したのですが、

今回、もう一步踏み込んで、マッサージ効果を高めることができるマッサージチェアを持ち込んだことは、体験された方々に評判がよく成功だったと思います。まつりの実行委員長自ら訪れて体験されたことは、社教館まつりでも当会の存在が認められた証拠です。12名の会員の方々が一日活動してくださり大変感謝しております。また、当会のコーナーを訪れた20名余の方が各々、ご自分の身体の不調を訴えておられましたが、それに対して真摯に対応されておられる会員の姿

を見るにつけ、当会の活動が徐々にですが地域社会に浸透しつつあ

ると思えました。私たちの活動の意義は、地域社会活動への参加、講演活動、国会請願活動と複数の活動を通じて、あるべき姿に一步一步近づいていくことにあります。



## ○ 東洋医療普及の機会 社教館まつりに参加

田中榮子

2月17日、千駄ヶ谷社教館まつりが行われました。当会は昨年同様、鍼灸・マッサージ医療の普及と、「館」を利用している人々との交流等のため参加しました。

今年は1階の角のコーナーを割り当てられました。健康相談や、マッサージ体験に見えた人は約20人でした。機能的マッサージチェアを瀬川氏が持参して下さい、休みなく活用されていました。

マッサージ施術は、若手の治療家に主にさせていただきました。私が受け持って、気がついたところを書いてみます。

Iさん(75歳)男性、岩下氏のゴルフ仲間とのこと。会館を借りる時の登録名簿作りの際、快く引き受けてくださっている由。本人の気になるところは、運動をした時の腰痛、不整脈、肩こり高脂血症でワーファリン服用中などです。お体を簡単に拝見しますと、首、肩、腕のこりも相当なもので、お仕事にいかに頑張っておられたかが現れています。反応の出ている穴にしるしをつけ、足のポイントを抜かさずに、軽く指圧マッサージを行いました。家庭でもお灸をやってみますと、奥さんも大層熱心でした。

Tさん(70代)女性。今回のまつりのボランティアの一人らしかったです。肩こりがつらいとのこと。血圧も高く、薬を飲んでいる由。この場合はうっ血が頭の方へ上っていることが多く、脳出血予防に頭から遠い手足からやった方が無難ですから、手の先の方から軽くマッサー

ジをしました。椅子にかけた姿勢ですと、足のポイントをきちんと出来ませんので、不十分さはあります。

賛助会員のOさん(女性)は、高齢なお母さんを連れ、川口から見えました。

(ご主人は、たまに相葉先生のところにかかっている由)「会」のニュースはよく読んでいる様子で、「何で鍼が効果あるのか、今日は聞きたいのできた。」「長年健康保険が使えるようにと運動しているのに、どうしていつまでも効果が出ないんですか」と熱心です。こういう人がおられると心強いです。こちらは、「これからも力を合わせてよくしていかれるように遠慮無くご意見をお願いします」等とお話しました。

どこへ行ったら、ちゃんと東洋医療を受けられるのか教えてほしいとおっしゃる方が何人もいました。

壁面の利用について、狭いコーナーを効果的に使い、東洋医療を分かってもらい、広めていく1つに壁面に分かりやすく、見やすい展示など来年は工夫したいねと、事務局メンバーともはなしました。

今回の出席者は12人でした。

(岩下幸卯、上石晃一 久下勝通、木幡久美子、斎藤ゆき子、瀬川信幸、高橋養藏、松本泰司、山西俊夫、山西力、山口充子、田中榮子)

ご参加の皆様おつかれさまでした。

東洋医療の普及の機会を、又つくっていかれたら、と思います。

## □ お知らせ

参議院選挙・立候補者へのアンケート調査について

2月17日理事会時、参議院選挙の前は、立候補する人が国民の声を真剣に聞こうとする機会なので、全政党の立候補者にアンケート調査を取ろう、と決まりました。担当者4人（平田、久下、山西力、田中）で、文書等作成中です。皆様もご意見ありましたら、よろしくお願ひします。

7月14日金沢大学教授、井上英夫先生の講演があります。会場は未定です。

## 小石川植物園・薬用植物園散策

NPO 法人 医療を考える会

前回大好評だった人気企画の再登場です。今回は場所を小石川植物園内の薬草園に移して行きます。春の一日、専門家のガイドで楽しく散策しましょう。

日時：**2013年4月7日（日） 午前10時30分～午後3時**

場所：**小石川植物園 入園料 大人（中学生以上）330円 小人（小学生児童）110円**

入園券は正門前の「米田商店」で販売しています。各自購入のうえ、正門前に10時20分に集合して下さい。

持ち物：**昼食・飲み物 途中、昼休憩をとりますので適宜ご用意下さい**

小雨決行ですが、判断に迷う天候の場合は前日にご連絡いたします。また、資料も用意しますので、参加希望者は事前に必ず連絡をお願いいたします。

**参加申し込み〆切 3月29日（金） 事務局：TEL03-3375-6151 FAX03-3299-5275**

### 講師紹介 日本漢方協会 常務理事 緒方勝行氏

**小石川植物園** 住所：文京区白山 3-7-1  
電話：03-3814-0294



都営地下鉄三田線

白山駅下車 徒歩約10分

東京メトロ丸の内線

茗荷谷駅下車 徒歩約15分



都営バス（上60）

大塚駅～上野公園線

白山2丁目下車

徒歩約3分



# がん放置療法のすすめ

患者 150 人の証言（著者 近藤 誠）

二人に一人ががんで発症の時代です。身近な人々が診断を受け、医師のすすめで手術、抗がん剤治療のため入院の道をたどるのを聞いています。

がんは身近な病気になりました。だれでも自分ががんに遭遇することを考えておかなければならない時代です。

国の制度によりがん検診をすすめ、早期発見により治療が可能であるかの宣伝も盛んですが、抗がん剤の副作用による悲惨な病状に、検診や治療への疑問も広がっています。

友人でも親戚でも入院を決めた方とがんでの対処について話し合うのはむずかしいですから、がんの診断を受ける前にがんの対処につき検討し話し合っておく必要があるのを痛感しています。

昨年 11 月 27 日に近藤誠医師の「がん放置療法のすすめ」の講演会が、医療消費者ネットワークの主催で、中央大学駿河台記念館 610 号室にて行われました。

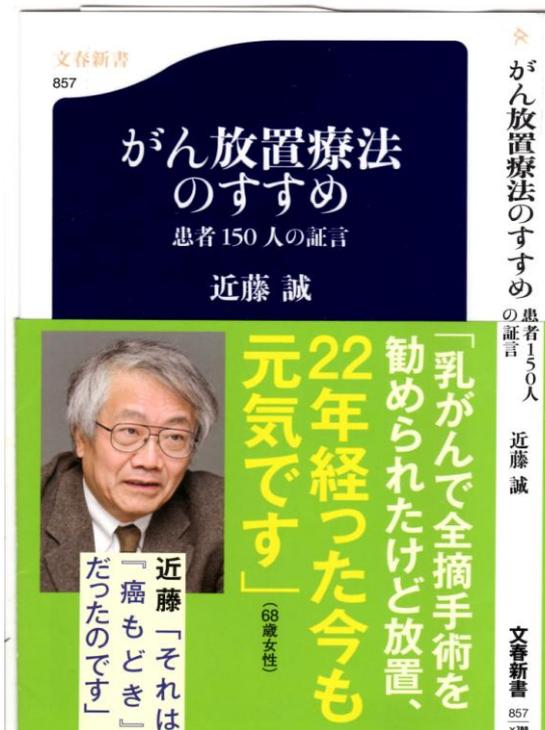
70 人～80 人入ると思われる教室は満席で、教室の周りに隙間なく参加者が立って講演を聞く状況でした。

主催者の方たちも予想しなかった反響のようでも混雑を謝っていました。癌治療への関心は強まり、抗癌剤への疑問が広がっているのを実感しました。

がんへの対処を考える上で是非とも読んでいただきたいのが近藤医師の「がん放置療法のすすめ」です。

近藤医師はがん放置療法に到達した経過について「がん放置療法のすすめ」の後書きで次のように述べています。ちょっとながいのですが引用します。

「私は研修医になったとき、がんは積極的に治療するのが当然とおもっていました。助手になり講師になったときも、積極的に治療しており、た



たとえば乳がん患者に、日本中のどの病院よりも強力な（欧米でスタンダードとなっていた）抗がん剤治療を実施していた時期があります。

ところが抗がん剤治療をしてみると、どうもおかしい。患者は苦しみ、あろうことか、はっきり命を縮めてしまった患者も数人経験したのです。

それで抗がん剤治療にたいする疑問が生じ、あらためて臨床データ論文を読み込み分析し、がんの本質・性質まで遡って治療の理論を考えました。それが結実したのが『抗がん剤は効かない』（文芸春秋）です。

他方、手術、放射線、がん早期発見等についても、実際の診療経験から多々疑問が生じ、それで臨床データを読み込み、理論を再構築する作業を続けたわけです。

そこで一貫していたのは、どのようにしたら患者が苦しまず、最も長生きできるだろうかという視点です。その視点にもとづき、無理や矛盾のない診療方針を考え抜いた結果が、がん放置療法です。世界で最も新しい治療法ないし考え方であるとともに、最善の対処法であると確信しています。」

近藤医師の著作「患者よがんと闘うな」（文芸春秋社）がベストセラーになり、がん治療に対し

大きな波紋を投げかけたのは1996年でした。

近藤医師は、がん治療に関するあらゆる問題について研究し発言を続けてきましたが、がんにどう対処したらよいか、到達点が「がん放置療法のすすめ」(文春新書)です。

「がん」には転移する能力を持つ「がん」と転移する能力がなく、発生しても自然に退萎していく「がん」(近藤医師は「がんもどき」と名づけている)がんがある。

がん細胞の外観の観察による「がん」の検査では、がんの転移能力を判別することはできないため、ほんとうの「がん」も「がんもどき」も「がん」と判別されている。

「がんもどき」は、副作用の深刻な手術や抗がん剤治療の必要はない状態である。また、「がん」は、細胞として発生するとすでに転移しており、検査で発見したがん細胞を取り除く治療に意味がない。抗がん剤治療に延命の効果は認められず、深刻な苦痛を生み出す治療は避けるべきである。

がんは苦痛に満ちたおそろしい病気として伝えられているが、不必要な治療の副作用が作り出している苦痛であり、正しく対処すればさけられる。

以上のような論拠から「がん放置療法」をすすめているので是非ご一読下さい。

行政も学会も近藤医師の問題提起を無視し、がん検診がすすめられ、手術、抗がん剤治療が行われるなかですから患者の判断も大変です。しかし、患者が変らなければ医療は変らないことを近藤医師も訴えています。

医療消費者ネットワーク発表

**近藤誠氏の主な著作リスト(一般市民向け)**

以下、○印のついた本は、現時点で(書店で)入手可能です。

1988年 がん最前線に異状あり～偽りのときに終りを(廣濟堂出版)

1990年 ○ 乳がん治療 あなたの選択～乳房温存療法のすべて(三省堂)

1994年患者と語るガンの再発・転移(三省堂)

がん治療「常識」のウソ(朝日新聞社)

○ 抗がん剤の副作用がわかる本(三省堂)

それでもがん検診うけますか(ネスコ/文芸春秋)

1995年 ぼくがうけたいがん治療(さいろ社)

「がん」ほどつき合いやすい病気はない(講談社+α文庫)

がんは切ればなおるのか(新潮社-新潮文庫)

1996年 ○ 患者よ、がんと闘うな(文芸春秋-文春文庫)

1997年 がん専門医よ、真実を語れ(文芸春秋)

「がんと闘うな」論争集(日本・アクセル・シュプリンガー出版)

1998年 なぜ、ぼくはがん治療医になったのか(新潮社)「治るがん」と「治らないがん」(講談社+α文庫)

1999年「治らないがん」はどうしたらいいのか(日本アクセル・シュプリンガー出版)

2000年 よくない治療 ダメな医者(三天書房)。医原病-「医療信仰」が病気をつくりだしている(講談社+α文庫)

2001年 ぼくがすすめるがん治療(文春文庫)

2002年 ○ 成人病の真実(文芸春秋-文春文庫)

2003年 医療ミス(清水とよ子=MECON代表との共著・講談社)

○ 再発・転移の話をしよう(アイデアフォーとの共著・三省堂)

2004年 ○ がん治療総決算(文春文庫)

○ 新・抗がん剤の副作用がわかる本(三省堂)

○ 抗がん剤のやめ方始め方(三省堂)

2010年 ○ あなたの癌は、がんもどき(梧桐書院)

2011年 ○ 抗がん剤は効かない(文芸春秋)

○ 放射線被ばく CT検査でがんになる(亜紀書房)

2012年 ○ がん放置療法のすすめ(文春新書)

○ どうせ死ぬなら「がん」がいい(宝島社新書)

## 今後の予定

4月7日（日）10:30～15:00 小石川植物園・薬草植物園散策  
5月～6月 100万人署名に向けて国会議員アンケート依頼  
7月14日（日）講演会予定（講師：金沢大学教授 井上英夫）  
11月 定期総会

### □ お知らせ

#### 参議院選挙・立候補者への アンケート調査について

2月17日理事会時、参議院選挙の前は、立候補する人が国民の声を真剣に聞こうとする機会なので、全政党の立候補者にアンケート調査を取ろう、と決めました。担当者4人（平田、久下、山西力、田中）で、文書等作成中です。皆様もご意見ありましたら、よろしくお願ひします。



### 編集後記

NPOのお仕事について3カ月になりました。苦勞の連続ですが、仕事にも大分なれてまいりました。先月の千駄ヶ谷社教館まつりに参加させていただいて思ったことは、東洋医療の認知度がまだまだ低いということと、それが故に潜在的な患者さんが多くいらっしゃるのではということです。今回祭りにいらしてマッサージを体験した方々の中には希望が持てたとまで仰る方もいて、正直疑問に思っていた今回の社教館まつりの参加にも意味があったのだなあと感じました。以上のことから、今までよりも東洋医療の普及の運動の大切さを学びました。いろいろと困難があると思いますが、これからもがんばっていきましょう。

（山西力）